



海外 稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

会長メッセージ

コロナ禍の2021年に赴任し、4年目となりました。さまざまな歴史を経験してきた南アフリカは多様性が尊重されていますが、日本人は数少なく、「你好」と声をかけられることもよくあります。そんな中で稲門会のつながりはありがたい、非常に心強く感じている日々です。卒業後のキャリアも年代もさまざまなメンバーが、日本

から遠く離れたこの地に集い、30年ぶりに「都の西北」を歌った際には、胸が熱くなりました。ヨハネスブルグはアフリカ各国へのアクセスも良く、多様な文化を感じられる素晴らしい都市です。皆様のご訪問の際は、稲門会メンバーが熱烈歓迎してくれることでしょう。

村岡 浩(1992年理工)

会員からのメッセージ

当地に駐在して2回目、通算8年目を迎えています。商社マンとして世界135カ国を訪れましたが、このヨハネスブルグの魅力は抜けるような青空、世界一の圧倒的な紺碧の空です。アフリカ各国に出張し、当地に戻るとこの紺碧の空が常に元気づけてくれます。その空の下、稲門同窓が「集り散じて人は変れど、仰ぐは同じき理想の光」をもって交流、研鑽し、各自各社のビジネス拡大に励んでいます。端役者の私ですが、人生劇場の第何幕目かにヨハネスブルグ駐在が除幕したことは、この上ない幸運でした。

石塚新弥(1988年理工)

私は2021年6月に赴任してきてから、この稲門会には特別な絆を感じています。同じ学

び舎にいたわれわれが、日本から遠く離れたここヨハネスブルグで、世代・性別・会社の垣根を越えて交友を深められることに、他にはない「ご縁」を感じており、今後世界のどこにいても一生のお付き合いをしていきたい方々ばかりだと勝手ながら感じています。治安・電気・水などの問題は尽きませんが、それ以上に楽しい日々をヨハネスブルグ稲門会の仲間たちと共に過ごしていることに感謝です。2023年4月より稲門会キャプテンを務めています。早々に早慶ゴルフ対抗戦で勝ち越せるよう頑張ります！ヨハネスブルグにお越しの際は、ぜひご連絡ください！

大鐘裕一(2008年教育)

2023年10月に赴任して以来、さまざまな機会稲門会のメンバーにはお世話になっており、卒業以来久しぶりに自身が校友だということ、南アフリカで改めて認識させられる不思議な体験をしました。アジアや他地域のように決して大きな会ではありませんが、日本から遠く離れた地で苦難が少なくない中で、少人数であるが故の団結力と助け合いの精神が、老若男女問わずヨハネスブルグ稲門会には根付いているとつくづく感じています。新たに南アフリカへ赴任される方がいらっしゃいましたら温かくお迎えますので、ぜひご一報くださいませ！

田原晟也(2015年国際教養)

ヨハネスブルグ稲門会について

ヨハネスブルグ稲門会は、村岡浩会長の下、現在20人の会員で活動しています。1981年



2024年3月の早慶ゴルフ対抗戦。充実したゴルフ環境の中で、毎回盛り上がる

から毎年、年2回のペースで行われている早慶ゴルフ対抗戦が当会の特徴的な活動であり、2024年9月末までに75回の対抗戦が行われました。現在は早稲田が36勝、慶應が39勝と惜しくも僅差で負け越していますが、毎回大いに盛り上がっています。

ヨハネスブルグはゴルフ環境が非常に充実しており、市内から車で30分以内に25以上のゴルフ場が点在しています。コースはきれいでレベルも高く、プレーフィーも高額ではないので、こうした恵まれた環境が、ゴルフ対抗戦を盛り上げる要因となっています。

また、歓送迎会を含めた定期的な懇親会・イベントも開催しており、会員同士の親睦を深める場として大変重要な役割を果たしています。

窪田裕之(2009年社学)

ヨハネスブルグの魅力

このように、ヨハネスブルグ稲門会は、豊かな自然と文化、そして熱い早慶対抗戦を背景に、地域の魅力を存分に生かして活動しています。

窪田裕之(2009年社学)

(上)10～11月の春に見頃を迎えるジャカラング
(下)集合住宅群に臨む、市内のゴルフ場



2024年3月に行われた懇親会

